

研究課題（テーマ）	医療的ケア児の家族介護者が行う体温調節援助に関連する 個人要因と環境要因の究明		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	山本麻理奈
	看護学部看護学科 看護学部看護学科	准教授 講師	浦井珠恵 鷲塚寛子
研究結果の概要			
【背景・目的】 日本では新生児医療や小児医療の急速な発展に伴い、新生児集中治療室（NICU）や小児集中治療室（PICU）で救命されて高度医療ケアを必要とする状態で退院する児が増加している。すでに重症心身障害児は脳障害や筋緊張の亢進、未成熟な汗腺により、体温調節が困難であることが分かっているが、体温調節方法は各家庭に任せられており、その実際は明らかになっていない。 よって本研究は医療的ケア児の家族介護者が行う体温調節に援助に影響する個人要因と環境要因を明らかにすることを目的とした。これによって個別性に配慮した体温調節技術を実践するための要素を抽出し、今後は医療的ケア児の利用できる体温調節機器の開発を目指す。 【方法】 半構成的面接によるインタビュー調査を医療的ケア児の支援や地域連携活動を行う施設を利用している児の主家族介護者 8 名に実施した。インタビュー内容から逐語録を作成し質的記述的に分析を行う。調査項目は①基本属性、②児の疾患に関連する情報、③周囲のサポート状況、④児の療養環境について、⑤体温調節で気を付けていることや体温調節が必要だと判断する方法、⑥体温調節で難しいと感じるところ、の 6 項目であった。 【結果】 体温管理について 1) 児が体温調節の困難さ、2) 体温の評価、3) 体温管理の方法、4) 体温管理のニーズの 4 つのカテゴリが抽出された。1) は「児の特性による使用物品の限定」などの 2 つ、2) は「家族自身の感覚」などの 2 つのサブカテゴリが抽出された。3) は「周囲の環境を整える」などの 2 つ、4) は「感覚過敏に対応した機器開発」などの 3 つのサブカテゴリが抽出された。 【考察】 これらの結果、医療的ケア児は体温を一定に保ちにくく、家族らは常に傍でモニタリングやケアを行っていた。体温調節は児の過ごす環境を一定に保つことと、局所の冷却や加熱に物品を使用して行っていた。家族らは感覚過敏な児でも使用できる物品や家族が常に行っているモニタリングやケアを代替してくれる機器の開発を望んでいた。			
今後の展開			
今後は本研究の結果を踏まえて作成した質問紙を用いた全国的調査を予定している。この調査では、南北に長い日本列島の地域差に配慮した体温調節機器の開発につながる要素を抽出する予定である。			